

リハビリテーション技術確立のための運動学習と脳内神経伝達修飾に関する基礎研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-11-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Yoneda, Mitugu メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00060969

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



リハビリテーション技術確立のための運動学習と脳内神経伝達修飾に関する基礎研究

Research Project

All



Project/Area Number

18700456

Research Category

Grant-in-Aid for Young Scientists (B)

Allocation Type

Single-year Grants

Research Field

Rehabilitation science/Welfare engineering

Research Institution

Kanazawa University

Principal Investigator

米田 真 Kanazawa University, 医学系研究科, 助教 (70334787)

Project Period (FY)

2006 - 2007

Project Status

Completed (Fiscal Year 2007)

Budget Amount *help

¥3,600,000 (Direct Cost: ¥3,600,000)

Fiscal Year 2007: ¥1,000,000 (Direct Cost: ¥1,000,000)

Fiscal Year 2006: ¥2,600,000 (Direct Cost: ¥2,600,000)

Keywords

運動学習 / 動物モデル / リハビリテーション / 作業療法 / 加速度計 / ドーパミン / セロトニン / ノルエピネフリン

Research Abstract

リハビリテーションに重要な運動学習について、動物モデル(ラット)を用いて脳内の神経伝達についてドーパミン、セロトニン、ノルエピネフリンの影響を薬剤投与の方法で検討した。

本年度は、昨年度の運動学習獲得について実験を行ったラット48匹を対象とした。

6ヶ月間の実験休止期間の後、4レバー・オペラント課題を行わせ運動学習の保持について加速度計により測定した相関係数で検討した。

再開後の運動学習の保持が確認できた。

さらに、薬剤投与による影響を検討した。

薬剤の違いによる結果の詳細は現在検討中であるが、ドーパミン、セロトニンのアンタゴニストとして薬理作用がそれぞれ異なるハロペリドール、クロザピンの2剤とノルエピネフリンの投与

による明確な違いはないようである。

今後は、新たな脳内メカニズムを検討し、組織学的な検討も加えて実施する。

Report (2 results)

2007 Annual Research Report

2006 Annual Research Report

URL: <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-18700456/>

Published: 2006-03-31 Modified: 2016-04-21